

猿や犬もしゃべった

腹話術は魔術かな、いや芸術！



腹話術は地声ではない、1オクターブ高い聞きなれない声を出す。腹話術とは無縁の聴衆は感心する。人形がしゃべり、イヌが語る。目の錯覚、耳の錯覚で術中に取り込まれているのだという。

中央公民館フェスティバルに「末広四人衆」が参加



腹話術は喉と舌と鼻道を活用した発声法だそうだが、横隔膜の働きを強めるトレーニングが必要という。そういうことを修行した成果のステージだ。地声でしゃべり、続いてサルがしゃべる。その使い分けが難しいそうである。腹話術の奥義に迫り国立劇場のステージに立つ夢も。



危惧吹き払う熱演

その術中に取り込まれた。確か高橋正幸師に入門したばかりの石田孝雄、小林実、それにグストの金子邦子の3氏が、イヌやサルを抱いて、中央公民館のステージを占拠したのである。まだ観客の私には危惧があつた。「できますか」。でも見事にサルもイヌもしゃべった。確かに拡声器から流れたのである。それもお堅い詩。「青春とは人生の一時期的ことではなく心のあり方のこと」。ごもつとも。イヌやサルがしゃべるにしては硬すぎるような。でも目や耳も錯覚し、確実な腹話術をききとつたのである。

「朗読 語り草」↓

高橋さんもメンバーのひとり。代表の佐藤艶子さん(左から二人目)の朗読には感動させる温かさがある。語っているのは平家物語から「祇王」、白拍子の末路を聞かせる。真ん中で高橋さんが清盛を演じている。忙しい。



末広クラブ・逆井漫歩152 平成22年10月